



ニワトリの卵は何度で温めるとかえるの

卵をだく温度は38～39度スィー

ニワトリの受精卵は、38～39度で温め続けると、3週間目に、ひながかえります。これは、母鳥が卵をだくときの腹部の温度と同じで、ふだんより高温になっています。温めているときは、1日に数回卵を回し、まんべんなく温めます。適当な湿り気も必要です。

ひよこを大量生産

ひよこを生産するときは、約1万個の卵が入る、大きな機械でかえします。機械の中は、温度は37～38度、湿度は50～60%に保たれています。かきませ器で、新鮮な空気が送られ、自動的に卵は回転させられます。卵が順調に育っているかどうか、温め始めて5～7日めと、15～16日めの2回調べます。

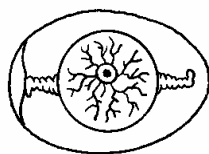
お店で売っている卵は、かえらない

オスの遺伝子（親の性質や体質などを伝えるもの）が入った受精卵でないと、卵はかえりません。お店で売られている卵は、オスがいっしょに飼われていないメスが産んだ、無精卵です。温めても、くさるだけです。

殻の外から、育ちぐあいかわかる

卵の中の、ニワトリに育つ部分は、胚といわれます。白身と黄身は、胚が育つための栄養です。胚が大きくなるにつれ、血管が広がってきます。卵に強い光をあてて、すかして見れば、中の様子がわかります。（監修・今泉 忠明）

卵が、ひよこになる変化



胚から血管が広がる



21日め

